



5	6
7	10
8	11

5. 天下図、琉球国図 朝鮮半島 19世紀 縦31.3cm / 6. 毛織衣裳 チベット 20世紀 縦111.0cm / 7. 土器* マリ共和国(アフリカ) 12-16世紀 高28.5cm / 8. 鉄釉白流甕 福岡県小石原(日本) 19世紀 高31.0cm / 9. 絞腰巻衣 マフェル(男性用・部分) ブショング族 コンゴ民主共和国(アフリカ) 20世紀 幅80.0cm / 10. カチナ人形 2種* ホビ族またはズニ族 アメリカ先住民 19世紀後半-20世紀 高24.0cm(左) / 11. 緑釉手付肉汁受皿 フランス 18世紀 横33.7cm ※は柳宗理遺贈品、他は柳宗理館長時代(1977-2006)の蒐集品



開館時間：午前10時～午後5時（入館は16時30分まで）
 休館日：月曜日（ただし祝日の場合は開館し、翌日休館）
 入館料：一般1,000円 大高生500円 中小生200円
 交通：京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分
 所在地：〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号
 電話番号：03-3467-4527
 西館公開日（旧柳宗理邸）：
 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日（入館16:00迄）

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

特別展 柳宗理の見てきたもの

Eyes of Sori Yanagi 2013年8月27日(火) - 11月21日(木)

1	2
3	4

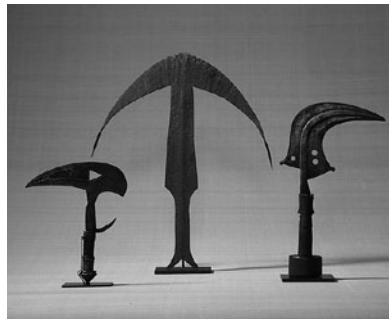
1. サイチョウ(カラオ) セヌフォ族 コートジボワール(アフリカ) 20世紀 高102.0cm /
 2. スリップウェア角皿 英国 18世紀後半-19世紀前半 横34.5cm / 3. 毛織絞衣裳 チベット 19-20世紀 縦126.0cm / 4. 屋根獅子(シーサー) 沖縄県(日本) 20世紀 高39.0cm

日本民藝館
<http://www.mingeikan.or.jp/>

特別展 柳宗理の見てきたもの



インド・ラダックでの柳宗理 1983年



貨幣3種
左よりコタ・ファンク族（ガボン共和国）、クウェレ族、マンベツ族（コンゴ民主共和国） 20世紀
最長のもの50.2cm 柳宗理遺贈品



仮面 ゲ・ゴン
ダン族 コートジボワール（アフリカ）
20世紀 幅15.3cm 柳宗理遺贈品

2011年のクリスマスの日に、96歳で他界した柳宗理（通称：そうり）。世界的な工業デザイナーであった宗理は、日本民藝館の三代目館長として29年間（1977-2006）にわたり、その重責を担いました。

館長時代には、「民藝館と現代社会を結びつけること」や「民藝の美をどのように現代に蘇らせるか」を自らの使命として、展覧会の企画やディスプレイをはじめ、ポスターや雑誌『民藝』（日本民藝協会発行）などのグラフィックや写真表現の仕事、そして自らの眼に適った品物を蒐集し民藝館のコレクションに加えていったのです。

美術館にとって蒐集という行為は、活動のエネルギーであり存在の理念を映し出す鏡といえましょう。創立者である父の柳宗悦（1889-1961）は、卓抜した眼によって民藝美という新たな価値をこの世に生み出していきましたが、宗理もまた「日本民藝館は純粋な美の存在をより輝かす場所である」との信念を胸に、自らの眼と足で国内はもとより世界各地への旅の中で、様々な品物を見つけ出していったのです。

宗悦と宗理に共通するものは、伝統的な暮らしの中から生まれた日常の器物への関心と、「無心の美」への共鳴でありましたが、おのずとそこには各自の眼の働きが作用しており、柳宗理ならではの美意識や造形的感覚が表れております。特に宗理の眼を惹きつけたものは、現代社会の中で今なお手仕事で純粋な形で残っている、アジアやアフリカなど諸地域で生まれた生活の造形でありました。

具体的には、日本の伝統美を表す「陶磁器」「面」「染織品」「菓子型」「花紋折り」、沖縄古来の風土と信仰から生まれた「シーサー（屋根獅子）」「陶器」、朝鮮民族の生み出した「民画」「陶磁器」「木工品」、始原的な美しさを持つアフリカの「染織品」「仮面」「土器」「金属器」、豊かな色彩と文様のインド・ブータン・チベット・アフガニスタンなどの「染織品」などがあります。宗理はそれらの品を蒐集し、展覧会や雑誌『民藝』の特集などで積極的に紹介していったのです。

宗理が物を蒐集した理由は、自身の「造形欲をそそるもの」がそこにあつたからに他なりません。当然ながら、嫌いな物など一点たりとも身近に置けるはずもなく、自らの創作物となって甦って来ないようなものには、関心をまったく示さなかったといっても過言ではないでしょう。宗理にとっての蒐集とは、あくまで新たな創作の意欲をかきたてるための原動力であり、生活するためのエネルギーであったのです。

本展では、宗理が館長時代に蒐集した日本民藝館コレクションの逸品をはじめ、この度柳家から遺贈された宗理愛蔵の品々を展示。また、父柳宗悦から受け継ぎ日々使用した、濱田庄司や河井寛次郎などの食器類も併せて展示し、柳宗理がどのようなものを見つめながら生活し、デザイン活動の糧としてきたのかを紹介します。

〔協力〕柳工業デザイン研究会

展示室 1 階

〔玄関〕特別展 柳宗理の見てきたもの —アフリカの布を中心に
絞りに代表されるアフリカの布は、主として儀式などの際に用いられたものです。これらは民族固有の伝統や風土の中から生まれたものであり、宗理は力強い生命感や呪術性を秘めたこのような造形に強い関心を示したのです。

〔第1室〕併設展 スリッパウェアと欧米の古陶

化粧土（スリッパ）で装飾し、鉛釉を掛け低火度で焼いたスリッパウェア。特に英国では18～19世紀にかけて、簡素な抽象文の皿や鉢など、無銘のスリッパウェアが数多く生産されました。民藝運動で注目されたこれら英国の陶器を、欧米の陶器を交えて紹介します。

〔第2室〕併設展 日本の民窯

九州や関東、東北の諸窯・丹波・瀬戸等、日本各地で作られた民窯の優品を紹介します。民窯とは民衆が使用した器を焼くことで、官窯に対する言葉でもあります。これらの焼物は、自然の恩恵を深く受けた材料と手法を用い、健やかで豊かな美しさを宿しています。

〔第3室〕特別展 柳宗理の見てきたもの —柳家の食卓

柳宗理遺贈品には、柳宗悦が蒐集した、富本憲吉や河井寛次郎、濱田庄司等の作品、さらに民窯の焼物が多数含まれていました。それらは宗悦一家が普段使いにしていた魅力ある食器です。嘗て柳家の食卓を彩った器たちを、当館所蔵品と共に展示紹介します。

展示室 2 階

〔大展示室〕特別展 柳宗理の見てきたもの

〔第1室〕併設展 朝鮮時代の磁器

日本民藝館所蔵の朝鮮陶磁器は約600点に及びますが、そのほとんどは柳宗悦が愛し、蒐集したものです。朝鮮陶磁の歴史をすべて網羅しているわけではありませんが、その独自の審美眼は、いまだに色あせず私たちにその魅力を伝え続けています。今回は、朝鮮時代の磁器を中心に紹介いたします。

〔第2室〕併設展 田島隆夫の地機織

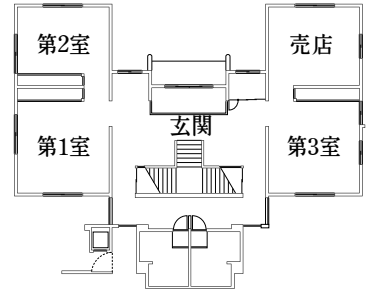
田島隆夫（1926-1996）は埼玉県行田市で、地機（腰機）で千点にものぼる帯や着尺を織りました。どれも地元で引いた素朴でふくらみのある絹糸を植物染料で染めた、縞や格子の単純な柄の織物です。糸の持ち味を十分に生かし、人機一体で織られた地機ならではの布の魅力をご堪能ください。

〔第3室〕特別展 柳宗理の見てきたもの —花紋折りを中心に

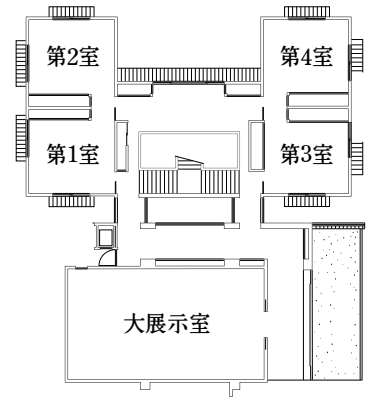
花紋折りは内山光弘氏が考案した折り紙です。宗理は初めて見た花紋折りに、日本の伝統的形態の姿とモダンで新鮮な美を見出しました。また、雛凧とは正月や節句などの飾り物として使われた小形の凧で、宗理はその美しさに魅了されたのです。

〔第4室〕併設展 神と仏の造形

江戸時代後期、全国を遊行し多くの作仏を為した木喰明満。第4室では、木喰仏のほか、名もない人々が刻み民間で祀られた神仏像や奉納面を中心に、社寺に伝来した什器や法具を併せ、神仏にまつわる造形約50点を展覧します。



〔1階第3室〕
鉄絵藍差紅茶碗・土瓶・ミルク入
濱田庄司 20世紀 柳宗理遺贈品



〔2階第4室〕木喰仏 虚空蔵菩薩像
江戸時代 1801年頃 像高73.0cm

記念講演会 デザインと民藝

〔講師〕深澤直人（日本民藝館館長、プロダクトデザイナー）

日時・11月2日(土) 18:00-19:30 料金・300円（入館料別） 定員・100名（要予約）

記念コンサート 柳宗理を偲んで —柳兼子の愛唱歌より 〔演奏者〕日野妙果（メゾ・ソプラノ）、小林道夫（ピアノ）
10月21日(月) 19:00開演 一般3,500円、友の会3,000円 定員100名（要予約）※詳細はお問合せ下さい